

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004年9月16日（木）

参加者数：240名 回答数：81名（回答率33.8%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	25	30.9%
2) 農林水産業	5	6.2%
3) 食品関連事業者	12	14.8%
4) 食品関連団体	15	18.5%
5) 研究機関	1	1.2%
6) 行政関係	13	16.0%
7) マスコミ関係	1	1.2%
8) その他	9	11.1%
・ 外国公館（1）		・ 食品安全モニター（1）
・ 食品関連事業経験者（1）		・ 学生（1）
・ 産業医（1）		・ 商社（1）
・ 無回答（3）		

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	42	51.9%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	12	14.8%
3) 関係団体からのご案内資料	17	21.0%
4) 知人からの紹介	9	11.1%
5) その他	4	4.9%
・ 農水メルマガ（1）		
・ 会場の案内板で。（1）		
・ 農水省消費安全局消費者情報官 e - m a i l。（1）		
・ 無回答（1）		

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	28	34.6%
2) やや評価する	34	42.0%
3) あまり評価しない	11	13.6%
4) 評価しない	4	4.9%
5) 無回答	4	4.9%

評価理由・

- ・ パブリックコメントも募集すべきだ。地方の人で会場に来られない人もいる。文書で募集し、その内容すべてをまとめずに公開してほしい。時間が短すぎて質問への回答がなされない質問も多いのに2分ではとても全部言えない。また8 / 4のようなレポートつき陳述会を行ってくださ

い。

- ・発症メカニズムが不明である状態でのリスク評価はより危険な方向になっている印象がある。
- ・座長の説明は一言で明確にし、意見交換の時間を増やしてほしい。
- ・真面目に国民のために努力いただき感謝いたします。しかし、このBSE問題、なんだか小さなRISKを極限まで引きのばして大げさにしていませんか？
- ・“安全”と“安心”の差をどう埋めていくか、難しいことであるが、このような会合は意味があると思います。
- ・消費者団体や生協などに所属する方々の発言ばかりで一般消費者の発言が全くなかった事が大変残念に思います。
- ・何故今のこの時期に意見交換会を開催するのか目的が不明。20ヶ月で切る理由の意味は、米国産牛肉の輸入のためのアリバイ作りとしか思えない。日本だけが全頭検査するのが何故悪いのか。
- ・意見が偏っている印象を受けました。特に意見交換ではなく、現在の間とりまとめに対する批判にしか聞こえません。
- ・SRMの除去こそが安全確保に重要であると言う事が前提になく、相変わらず検査（不完全な）の事みの話に終始している。
- ・文章の議論がリスクコミュニケーションとは思えない。100万分の1以下のリスクをなぜもっと強調して言わないのか不思議。もっと危険な食べものはたくさんある。今後は1.2億分の0.1~0.9を今後、リスクの線引き基準とする国にするつもりですか。
- ・吉川先生と科学的なお立場で本当に苦慮されているのがよく理解できました。消費者の見方で危険なものは全て排除という感情的な考え方と、データに基づいた危険度推定の考え方のギャップ差を埋めるのはなかなか困難なのかなと思いつつ、繰り返しの意見交換が更に必要かと。
- ・率直な意見が出てよかった。
- ・これまでのリスクコミュニケーションをみて感じたことは、何の為にこのリスクをやっているのか？ということです。ただ聞くだけで何ら施策に反映されないとすれば、単なるガス抜きにすぎないことになります。
- ・あと30分程度時間があつたら良かったと思いますが委員のみなさん方ごころう様でした。
- ・行政関係の文書のみでの発表ではなく、実際、話を聞くという手法はこれからも必要と考える。まさにリスクコミュニケーションである。
- ・進行がスムーズだった。
- ・発言希望者全員に発言の機会が与えられなかった。時間が足りないのでは。
- ・いわゆる消費者団体の意見を真剣に対応していることは大変評価します。ただしこの時間帯がよかったかは「？」がつきます。
- ・今なぜこの時期に「中間とりまとめ」なのかなど、あまりよく理解できなかった。リスク評価機関としての姿勢をもっと明確にし、消費者にもよく分かるように説明すべき。
- ・討議の時間が短く、1人1回しか発言できなかった。
- ・東京で開催されている数回に参加しましたがメンバーの固定化と議論の硬直化が感じられます。この様な（一般参加）方式の継続も大切だと思いますが、新たなRCの形式を加えていくこともご検討されてはいかがでしょうか（代案がなくすみません。）
- ・食品安全委員会プリオン専門調査会の委員の意見が結論部分に反映されておらず、中間のまとめと結論の落差を感じる。結論の部分に省庁や政治的な要素が入っているのではないかと。
- ・正直な説明があった。
- ・リスクの大きさについて、大項目、中項目、小項目をわかりやすく報告してほしい。消費者は小項目かどうかのわかりにくからです。

- ・リスク評価がもともと限定要素が大きいと言われているにもかかわらず、今回の議論の前提としてリスク評価から計算された数値に委員会メンバーがこだわっていたので、質問者と議論になっていなかった。
- ・安全委員会の行動について、一般の人はマスコミから情報を得るしかないのが実情だと思う。新聞は一方的な解説が多く、誤解され易い。安全委員会としてのPRはやはりやるべき。
- ・各出席者のキタンのない発言はとてもいいことです。もっと話の基準を明確にしていくべきではないでしょうか。
- ・意見が報告書等に全く反映されていない。単なるガス抜きの場合である。
- ・消費者代表が生協関係者に限られているように感じられる。一般消費者は意見交換会に出席しないのではないか。
- ・いろんな立場、いろんな考えを持った人の意見を聞くことは良いことである。
- ・活発な意見交換があり、大変勉強になった。中間報告の内容をよく理解できた。
- ・負の遺産について今後の心配が生じた。リスク管理はきちりと頑張りたい。
- ・わかること、わからないこととはっきり説明いただきありがとうございました。
- ・基調講演のみならず、後半の意見交換の時の時間が多くとられ、一問一答形式で丁寧な回答がありよかった。
- ・コミュニケーションを重視している。
- ・プリオン委の座長、副座長の誠実さは評価。
- ・直接委員の方の考えを聞くことが出来る。
- ・中間発表の内容や立場(?)を理解していない質問者が多い。またそれに対する回答もあいまいなものが多い。先にペーパーで質問を出させてから交換会をしたほうが良い。
- ・意見交換の場を持つことは良いことだが、質問に対する答えが明確でない場合がある。
- ・中間とりまとめの説明より質疑応答が大変勉強になりました。
- ・350万等の牛を調べたのは、どこの、誰が、どんな検査したか、さっぱり分からない。ケンサ、ケンサの現場の事をもっと詳しく説明してほしい。説明すべき。
- ・会場からの意見、質問に対し、吉川さんはじめ、みなさん率直に回答していた。
- ・非常に率直な意見交換ができて良かったのでは? 行政側も消費者のホンネがまた消費者も行政の具体的な説明が直接聞けた事は有意義だったと思う。
- ・筋違いの質問(内部告発があった。私はこういう事実を知っている)などに対し、答えの内容がかみ合わずもどかしさを感じました。科学的立場には立っているが、非科学的な質問に対し、何を心配しているかを汲みとれ切れていない感じ。
- ・色々な立場の人の意見を取り上げられた為。
- ・検出限界以下の牛についてのリスクを排除できないにもかかわらず、我が国のリスク低減に効果がある全頭検査を見直しとした根拠が理解できない。まとめとしては、維持すべきとするべきではないか。
- ・委員会の構成メンバーの意欲が良くわかった。
- ・今回の交換会は急ぎすぎである。今までにないものを感じた。政府機関であるが、もう少し独立した委員会を期待する。
- ・このような会はとても大切なので、遠方でも参加できるよう、各県で一会場とするなど、もっと機会を増やしてほしい。
- ・先生方の説明がわかりやすく、取り組んでいる姿勢が感じられる。
- ・活発な意見がきけた。
- ・開催すること自体に意義がある。

- ・質疑応答を時間をじっくり取って行う姿勢は評価します。しかし、会場からの質問の内容、ポイントを司会の方が十分に把握されていない面が見られて、うまくかみ合わせができていない場面があったと思いました。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

1)	広く関係者の意見を聴き、意見交換する行政の姿勢がみられた	39	48.1%
2)	情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた	29	35.8%
3)	対行政だけでなく、立場の異なる関係者間での意見交換が大切と感じた	25	31.0%
4)	意見交換としては、不十分だった（時間的・内容的） 時間的（10）内容的（4）	30	37.0%
5)	行政の一方的な説明に終わって、運営に不満を感じた	1	1.2%
6)	BSE 対策について理解が深まった	20	24.7%
7)	その他	11	13.6%

- ・ 西郷さんががんばっている。
- ・ まだまだ理解ができない消費者が多いと感じた。
- ・ この場でなくても発言機会のある方がなぜ指名されるのですか？
- ・ この会の目的、今後のシナリオ、何に使われるのかと最初に説明しないのが疑問。
- ・ リスクコミュニケーションが単なる意見を聞く場（ガス抜きの場）であってはいけなと思う。消費者が委員に入っていないのだから、それを反映する仕組みが必要だ。
- ・ 今回のように事実報告と、日本のBSE対策のリスク管理のあり方について行政の説明責任とは違うのでは？
- ・ 片寄った意見、時間オーバーの人がいて残念
- ・ フリーの意見会の為、しょうがないが質問が飛びすぎ。聞きたいことが聞けなかった。
- ・ BSE対策についての理解に対し、良くも悪くも。
- ・ この場に来られない人の意見をどう集約するかが課題。
- ・ 伝える努力はまだ足りない。

問5 BSE問題について、どのようなことに関心がありますか？

- ・ 日本では耳標による管理をはじめているが、出生日が本当に正しく届けられているか心配。今年になってからも牛の素埋め事件があったが、死亡届もいい加減に管理できるのに、出生届がまともに管理されているか疑問。20ヶ月なんて区切れないと思う。アメリカとすべて結びつけて報道されているので「20ヶ月は米国とは関係ない、国内のみの評価であり、米国は又別途、評価が必要である」と付け加えて強調すべきである。日本の牛の中には輸入生体牛がいて3ヶ月たてば国産牛となる。正確な月例も不明。暴露量も不明。米国牛は血液のみ民主党BSE調査団の報告によると肉骨粉を食べている。羊を使った牛のBSEの輸血感染実研だと24頭中4頭感染している。それら暴露量不明な牛が日本にいるのに、別評価をしないで20ヶ月の適用をするのはおかしい。英国では20ヶ月の発症牛がいて17ヶ月で検出できる。暴露量が高いから別という説明なのになぜ考慮にいれないのか？
- ・ BSEの自然発症牛。BSEの発症メカニズム。プリオンの接*はガン細胞の移植と同じではないか。発ガン物質と同じような因子のスクリーニングは進んでいないのか。
- ・ 消費者の理解度の低さがよくわかった。

- ・一部の消費者がこまかすぎる事。
- ・消費者がどこにリスクを感じているか？事実としてどこにどの程度のリスクがあるのか？
- ・日本の消費者が正しい知識を持つこと。SRM除去の役割が大きいと言いながら検査続行の判断がなされることはおかしいと思う。
- ・実情とマスコミ、ミスリードの因果。2001年9月と同じミスリード。だから大ゲサになる。
- ・国内問題だけに限定するのではなく、地球規模での対策も必要。食の安全の視点から、国内と海外の対応策に差異があるのは問題あると思う。
- ・SRM除去。
- ・純粋に科学的な検証を取りまとめるのであれば、リスクの可能性のあるデータが存在する現状では全頭調査を継続すべき結論であるべき。消費者は誰も望んでいない。
- ・いつ輸入が再開するのか？日本は国際基準よりも自国の規制を重要視し、国際社会で牛肉以外での不利益を被っている点は？
- ・ゼロリスクを唱える人達の声ばかり聞きすぎてまともな意見がされないため、世界基準に則った管理対策がとられていない。
- ・死活問題！殺さないでくれ！誰か自殺したらいいのですか？なんでそんなにリスクの少ないBSEに税金を使い、ここまで議論して消費者団体を怖がるの？一般国民はそこまで考えてない。選択の権利が消費者にはある。唐木先生来てるのになぜ、先生の様な方の内容の講演をしないのですか？
- ・対米輸入に関する特定部位除去問題（SRM除去）と、検査の月令（20ヵ月）について、あいまいなまま輸入開始とならない様にと心配しています（若令牛でも回腸で検出される場合があるなど...）
- ・牛の内臓を使った加工食品のリスク。飼料の問題。
- ・危険部位の除去：吸引で行うと他部位へのコンタミがなくよい方法と云われるが日本の屠畜場でこの設備を持っている処が少ない様なので屠殺時のコンタミが心配である。高感度試験法の1日も早い確立が望まれる。
- ・検査方法について、生体検査でBSEの判断ができないか。
- ・米国产牛肉の輸入再開。
- ・全頭検査の見直しについて、この検査に限界がある以上、見直しすべきで、SRMの除去で安全性は確保できると思います。
- ・米国からの牛肉の輸入条件と輸入再開時期。牛エキス、ゼラチンなどの安全性。
- ・BSEの科学的安全性。
- ・米国におけるBSE対策の情報が不足しているので、情報収集を進めて情報公開をする必要がある。
- ・消費者がどの様に理解をしているのか？
- ・輸入食品、輸入牛、牛肉についての安全性。国内対策の強化。ピッシング、他。
- ・牛肉が政策物資化するのをおそれる。
- ・日本のBSE対策の評価はわかりました。しかし、アメリカ輸入との関係が騒がしいことが問題です。今後アメリカ牛の評価をちゃんとやってほしい。
- ・海外からの輸入品及び加工品に関するリスク評価。行政の対応（厚生労働省 貿易対応と農水省の連携）
- ・屠場での検査のレベルは問題ないのですか？飼料が一番大きな原因と思うが、農水省は「アリの一穴」という表現をしているが、BSE牛の対応をみても、徹底してやっているようには思えない。
- ・全頭検査を維持するのか否か。見直すのか？今の時期の中間報告はUSAに対する配慮をしたのですか？
- ・月齢の把握。

- ・科学だけでは食の問題は割り切れない部分がある。BSE問題はその適例と思える。
- ・死亡牛検査を屠畜場での全頭検査と同時にスタートさせる必要があったのではないか。
- ・全頭検査の場合に牛肉1kgあたりいくらの検査費用がかかるのか。また20ヵ月未満の牛を除外した場合はどうか。
- ・検査する、しないの線引きを20ヶ月令とすることにどれだけの科学的根拠があるのか、疑問である。
- ・リスク評価と今後の発生について、人への汚染について。
- ・リスク管理の為に現状では全頭検査が大事だと思う。
- ・個人的には7年間は全頭検査が必要と思う。安心には無駄な検査も必要な時もあると思う。
- ・現状の対策（SRM除去と検査）だけで本当に安全なのか、日本の牛だけでなく輸入牛の管理はどうなるのか。
- ・全頭調査の後退、中間報告書の米国牛輸入への影響、マスコミにおける報道。
- ・日本の検査体制見直し議論と米国産牛肉輸入再開を関連づけるべきではないとする方々もいますが、自然と関連づいてくると思います。科学は世界共通のはずです。安全は科学で解明できます。しかし、その基準となる科学議論そのものがなぜ、日本は特別な基準となるのか大きな関心です。
- ・米国産牛の輸入再開です。日本のBSE検査のあり方で輸入再開の時期が決まると考えるので…。日本に科学的理論をムシし過ぎているのではないのでしょうか？もっと国際基準をみるべき！！
- ・アメリカのSRMの確実な除去。アメリカのBSEの実体 - 検査すれば日本より多いはず。アメリカ産牛肉を使用した吉野屋の牛丼を懐かしがる人の神経。
- ・委員のメンバーには、(1)牛肉は好きですか？(2)牛肉は食べていますか？(3)今後入ってくるであろう米国産牛肉を食べますか？
- ・リスクは何にでもあるもの。どこで線引きするか。
- ・BSE牛の安全性評価
- ・20ヶ月齢以下は検出されないというのは国内のみですか？SRM意外はリスクが少ないということであれば、牛乳は安心という認識が広がっているのに、肉は安全と消費者に伝えて欲しい。
- ・ほんとうに全頭検査をしないでも安全なのか。やはり不安をぬぐいきれない。
- ・潜伏期間が一番怖い。
- ・日本における対策とその効果。BSEはいつ終息するのか。
- ・検査方法、今後さらに感度のよい検査方法が開発されるのか？どれくらいかかるのか？また、感度がupした場合、20ヵ月以下の検体を再度測定することはあるのか？
- ・(1)現状（SRM除去方法など）を踏まえてリスク評価が必要ではないか。(2)アメリカのBSE対策のリスク評価。
- ・輸入牛肉
- ・米牛肉の輸入再開、安全性。
- ・エキス等を使った関連商品。手、人、その他の動物等の関わり。国（国会）農水省の対応。
- ・生産者は消費減不安。消費者はBSE不安。どうやって不安をなくすかが問題。政府の対応のあり方と思う。
- ・検出の方法。WB法。その他の違い。
- ・全頭検査以外に安全が保障される安心な検査方法があるのか。
- ・人への感染。食物連鎖からどの程度排除できるのか？
- ・化学的、科学的。
- ・牛肉の輸入について。国内の措置を評価したように、外国の評価も必要である。委員会はなぜEFSAのように地理的BSEリスクの評価を行わないのか？この評価は米国の輸入解禁に当たり最も

ベースになるものである。

- ・ B S E 対策で消費者に対する食の安全の確保に具体的な説明がなされるか（ 20ヶ月令以下に分けたことに対し）
- ・ 今日のリスクコミュニケーションが全頭検査の変更につながる政治性をもっていることです。

附問 5 - 1 上記の関心点について、今回の意見交換会は役に立ちましたか？

1) 大変役に立った	9	11.1%
2) 役に立った	32	39.5%
3) あまり役に立たなかった	14	17.3%
4) 役に立たない	10	12.3%
5) 無回答	16	19.8%

問 6 今回の意見交換会の進め方についてお伺いします。

1) 満足	9	11.1%
2) やや満足	37	45.7%
3) やや不満	20	24.7%
4) 不満	5	6.2%
5) 無回答	10	12.3%

また、会の運営等で何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・ 輸入生体牛の質問をしたのに回答がもらえなかった。時間が足らなすぎる。
- ・ 吉川先生が対応するわけで、問 4 の行政の姿勢など見えないが、今後も続けて頑張りたいとは思っています。
- ・ 挙手した時に発言の機会のある人がほとんど決まっていたり入り込めない。
- ・ 特になし。
- ・ 「中間とりまとめ」については、すでに読んであるという前提に基づいて行えば、最初のプレゼンは不要になり、議論にもっと時間をかけられるのでは。
- ・ 行政、対米対策が背景にある中でのアリバイ作りは止めてほしい。これを持って消費者の同意が得たと思うな。
- ・ 毎回出席している方がいるように感じました。悪くないと思いますが意見の偏りが出るのももっと R a n d o m に広く意見が聞けるような場にすべきだと思います。
- ・ より広く意見を求めるため夜間に行っても発言するのは消費者の代表ヅラした常連ばかり。委員会もしているメンバーばかりが意見を述べるのではリスクコミュニケーションになっていない。
- ・ 消費者団体、生協というゼロリスク論者ばかりの発言で、もっと国民を意識したものにすべき。これが国民の総意では世界中から笑われる。食品とは食べるものなので、国民は食べられるのかどうかを言えばいいだけ。前に座った偉い方が世界基準にした場合、牛肉を食べるかどうか、各人が答えればいいのでは？国民が知りたいのはくだらない細かい数字ではない。
- ・ 出来る限り多数意見をと言う配慮がみられて良かったと思います。
- ・ 3つに区分して進めたのが良かったと思います。
- ・ 科学的根拠はよく理解できるが、消費者に説明することに十分であるかという点で疑問が残る。
- ・ 食肉業界からの意見が少ない。
- ・ 意見交換の時間が十分ではなかった。

- ・もう少し時間をとるべき。これでは不十分。これでリスクコミュニケーションが終わったとは思ってほしくないです。
- ・意見（会場）のとり方をもっと考えてほしい。毎回同じ人の発言、同じグループの発言が気になる。
- ・網羅的で、リスク評価の部分などについてもっと深く論議をしてコミュニケーションするべきであったと思う。一問一答でのやり方は評価できると思う。
- ・消費者団体の方々は、コミュニケーションをしているのか疑問です。既に結論を持って一方的に意見を述べられている様に受けとめられると思います。消費者の本当の声を反映する機会を失っているのではないですか。
- ・事前の質問もとって、紙ベースで答える（当日出す）しくみをつくってほしい。
- ・検査についてははじめに出た質問の先送りの分について、回答がなかった。
- ・質問が「安全の完璧」を求めるものが多く、現状では答えが出来ないようなものが多い。
- ・限られた時間内でよくできたと思う。
- ・少しは理解出来たから。
- ・コーディネーター（進行役）が適切でない。もう少し時間が必要。リスクコミュニケーションのリスク管理をはじめとする今後のいかし方。
- ・一般消費者の意見がなかったのが残念だった。
- ・今日の会に限らずいつも同じ方ばかりが発言されていて、他の方々の意見が聞けず残念です。せっかく参加したので、意見を聞いて頂きたかったが全く発言できず、がっかり致しました。
- ・タダのガス抜き？
- ・問3参照。
- ・保留にしたものの回答はどのようにするのか。
- ・行政がかなり率直に話しておられたのを評価したい。
- ・消費者にわかる言葉で常に説明するべき。専門家であるならば専門家であればこそ理解してもらうために努めていただきたい。
- ・委員側の誠意はよく伝わったと思います。
時間をもっと掛けて十分意見が聞きたかった（参加者の）、（全国で2ヶ所しかないので新幹線を使い、夜なので最終ダイヤを気にしての参加です）会場ロビーでの分煙対策をしっかりと行ってほしい。
- ・吉川・金子先生はとてもわかりやすいお話を聞いてありがたく思いますが、全く違った先生の話も入れてほしい。だいたい来ている人が同じ様に思うので、いろいろな先生の話を知りたい。
- ・無作為に抽出することも必要なのではないか。挙手であると、発言が偏ると思います。
- ・司会の方にもっとはっきりしゃべってほしかった。
- ・こんな貴重なコミュニケーションをなぜ8時半で打ち切るのか。もっと徹底してやるべきだ。
- ・会場は良かった。座っているのがつらい会場があるので十分に配慮されたい。
- ・これでおしまいですよ、というニュアンスを感じました。なぜ、いまこの時期に中間まとめを出したのか、という質問にはきちんと応えるべきでした。事務局は...

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

- | | | | |
|----|---|----|-------|
| 1) | 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること） | 48 | 59.3% |
| 2) | 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等） | 68 | 84.0% |

3)	食の安全ダイヤル	29	35.8%
4)	食品安全モニター	32	39.5%
5)	食品の安全性に関する政府広報	28	34.6%
6)	その他	3	3.7%
	・ 委員会のリーフレットなど、季刊紙「食品安全」		
	・ 意見交換会の議事録をHPで！！		
	・ 消費者出版物		

附問7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ 今後も取り組みを続けてください。
- ・ もっと早く案内として発表してほしい。
- ・ あなた達は国民のための委員会なのか？行政サイドのための偽善としかかんじなかった。
- ・ なんでも反対の方の意見は意味ない。民主党や共産党の意見をすべてききますか？
- ・ 「食品安全」の季刊紙が創刊されたことは大変喜ばしい。唯あまり紙質など上質すぎて、コスト高になったのでは？次回からもっと紙質を落としてでも部数を多く印刷され、広く消費者の目に触れ、手に取る様な工夫を是非お考え頂ければと思います。
- ・ 安全を安心として説明することは行政の責務である。
- ・ 消費者からの要望により、食品安全委員会がリスク評価するしくみがあるのか。
- ・ 講演飼料のパワーポイントが全てついていないのでつけて。講演中の内容をページをくくることが多く聞いている方も散漫となり、内容を理解ができないことがある（あった）
- ・ 今回みたいに夜にやってくると傍聴できる。
- ・ 検査内容に関して、政治的に利用されないよう、安全委員会には責任がある。
- ・ PR不足。
- ・ 消費者、誰もがみられるもの（新聞・テレビ）などで色々なこと（委員会のこと）を知らせて欲しい。
- ・ 情報開示を熱心にしておられることは良いと思う。
- ・ 各々の立場の違いから、意見がかみ合わないことは当然のこと、個人的には、委員サイドの対応は十分なアカウンタビリティを果たしていたと思います。委員の方達には全国で同様の行脚をしなければならぬので、毎回同じような問答になるのだろうと想像しますが、毎回、常に最初の時と同じような真摯な気持ちで臨んでいただければと思います。それだけ消費者は真剣かつ重要事項としてとらえているのです。
- ・ 外国の地理的BSEリスクの評価を実施すること。実施をしないということであれば、その理由を明示すること。質問者に数台のカメラを向けるのは気の弱い人をコメントしづらくするので、適当でない。